



第76号

●主な記事

令和元年度同窓会総会開催
支部・同期会・OB会日より
母校近況・寄贈図書

令和元年12月15日発行

一般社団法人 長野高等学校金鷄会

事務局 ☎(026)235-3822

発行人 加藤 久雄

編集人 桃林 聖一

URL

<http://www.kinshi.org>

E-Mail

dousoukai@kinshi.org

創立120周年を迎えて

同窓会長 加藤 久雄 (高13回)

台風19号により被害を受けられました皆様に、心よりお見舞い申し上げます。地元長野市における被害は甚大であり、また、全国各地でも多くの被害が出ており、同窓生の皆様にはいかがお過ごしかと心配しております。

さて、長野高校は、今年度、創立120周年を迎えました。10月19日(土)には、長野市のホクト文化ホールにおいて記念式典・講演会(池上彰氏)・演奏会(喜多郎氏と本校吹奏楽班・管弦楽班・合唱班)を開催する予定でしたが、被災の状況に鑑み、祝賀会も含め急遽中止いたしました。

式典等は中止になりましたが、予定しておりました残る記念事業は、すべて実施することができました。

中心事業であるエアコンの設置については、長野県が整備したホームルーム教室と10室ほどの管理室に続き、記念事業で整備した理科室などの特別教室・職員室等に

ついては夏休み明けには稼働し、県内では唯一、全教室にエアコンが整備されました。その他の事業についても順調に進んでおります。下記の事務局からの報告をご覧ください。

募金については、目標額4,000万円を掲げましたが、最終的には5,000万円に達しそうな勢いです。一時は目標に達しないかと心配しましたが、さすが金鷄健児の底力を見た思いです。ありがとうございました。また、台風19号により被災された皆様に対し、記念事業の予算から100万円を義援金として、長野県を通じて贈ることにいたしました。残額については、今後検討いたしますが、金鷄会館の補修など有意義に使わせていただきたいと思いますと考えております。

今後とも後輩達のためにご支援を賜りますようお願い申し上げます。

事務局より

創立120周年記念事業募金に多くの皆様からご協力をいただきありがとうございました。お陰様で無事に記念事業を実施することができました。収支決算については実行委員会・理事会で審議のうえ、次号の『日新鐘』で詳しくお伝えします。

記念事業

1 記念式典・講演会・演奏会・祝賀会の開催

台風19号の災禍に鑑み中止と致しました。これに代えて長野県に被災者義援金100万円を寄贈いたします。

2 エアコンの設置 管理室11室 特別教室9室

これにより県の事業と合わせてすべての教室と職員室にエアコンが整備されました。



3 太陽光奨学金の創設

太陽光パネルを設置し、太陽光発電の売電収入を完全給付型の奨学金として活用します。



4 NGP(長野グローバルプロジェクト)への支援

文部科学省の「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」の指定を受け、長野高校が取り組んでいる事業を支援します。

5 CD「金鷄健児愛唱歌集」の発行

校歌・応援歌など合唱班OBによる23曲収録(創立100周年時に作成したものを複製)



6 記念クリアファイル2種作成





ご挨拶

学校長 宮本 隆

まずもって、今回の台風19号の被害にあわれた皆様にお見舞い申し上げます。台風襲来の日10月12日（土）以降、各地での被害状況が判明してくる中、本校生徒にも甚大な被害を受けた生徒がいること等を鑑みて、15日（火）の段階で同窓会の役員の皆様には学校として参加できる状況ではないことをお伝えいたしました。この記念式典のために、多くの時間と労力をかけて準備いただきました同窓会の皆様の心中や心情を察すると大変胸が痛むところです。重大な決定をしていただいたと思っています。

今回の災害に際して、生徒会役員が中心となって募金呼びかけ、被災した仲間への募金が全校挙げて行われました。1・2年生の中には市内の被災地にボランティアに出かけた生徒の皆さんも多くいたと聞いています。また、新聞部では長高新聞の第1面を120周年記念の特集

記事から台風19号関連に差し替えて新聞を発行しました。災害現場に出かけ、災害の実態や実際に部員が経験したボランティア活動のルポルタージュを掲載するなど、新聞部の活動は朝日新聞にも掲載されました。このような生徒の皆さんの素早い行動や若者らしい積極的な姿勢に接し、改めて生徒の皆さんの頼もしさを感じた次第です。

残念ながら120周年記念式典は中止となりましたが、本校が今年度から文部科学省の指定を受けた「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローバル型）」において、昨年までのSGH指定により培ってきた学びを、さらに深化・発展させていきたいと考えています。変化が激しく、複雑性が増大する現代社会において、未来を自ら築き上げてゆくことができる人材育成を目指し、今後も地域や同窓会、さらに関係の皆様と連携しながら本校教育活動の発展に邁進してゆく所存です。

学年幹事会・同窓会総会開催

期 日 令和元年6月22日（土）
場 所 長野市県町 ホテル国際21
出 席 者 学年幹事 95名（委任状を含む）

◇学年幹事会議事

- 第1号議案 平成30年度事業報告・決算報告承認・監査報告
- 第2号議案 令和元年度事業計画・予算案承認
- 第3号議案 令和元年度・2年度理事・監事の選任
- 第4号議案 長野高校創立120周年事業経過報告

◇平成30年度事業報告・令和元年度事業計画

- 1. 会館維持運営事業
- 2. 旧制中学校資料収集事業
- 3. 高校生の国際理解涵養事業
- 4. 市民大学開催事業
- 5. 貸室事業
- 6. 池田満寿夫ギャラリー事業
- 7. 同窓会事業

- (1) 会報「日新鐘」の刊行
- (2) 支部・同期会・OB会への協力
- (3) ゴルフコンペ (4) 在校生への援助 (5) 購買
- (6) 日新館事業 (7) 結婚相談室

- 8. 総会、理事会、各種会議の開催
令和元年度の事業計画は平成30年度に準じる。

◇同窓会総会

当番回期 高36回・高48回

◇学年幹事会・理事会報告

◇記念講演会

演 題 観光の潮流とグローバルNAGANO
講 師 亜細亜大学経営学部
ホスピタリティ・マネジメント学科
准教授 久保田美穂子氏（高36回）

◇懇親会

◇平成30年度決算・令和元年度予算

○収入の部		(単位：円)	
科 目	平成30年度決算	令和元年度予算	備 考
正 会 員 会 費	12,640,000	13,200,000	
準 会 員 会 費	2,339,400	2,286,000	
特 別 会 員 会 費	22,000	20,000	
寄 付 金	410,000	200,000	
貸 室 料	2,879,661	2,800,000	
市 民 大 学	53,000	60,000	サイエンスカフェ
雑 収 入	230,185	160,100	利息・購買
貸付金返済収入	3,200,000	0	長野高校PTA
奨学金貸付金返済収入	700,000	300,000	池田満寿夫美術奨学金
緑の基金取崩収入	0	150,000	
そ の 他	204	400	
前 期 繰 越 金	7,558,736	10,189,255	
合 計	30,033,186	29,365,755	

○支出の部		(単位：円)	
科 目	平成30年度決算	令和元年度予算	備 考
会 館 運 営 事 業	4,773,482	4,821,000	給料・通信費・補修費等
旧制中学資料収集事業	0	30,000	
国際理解涵養事業	200,000	210,000	生徒米国リーダー研修
市 民 大 学 事 業	82,851	79,000	
同 窓 会 事 業	7,381,705	7,340,000	会報発行費・教育奨励費等
管 理 費	4,475,802	4,941,000	人件費・光熱水費・火災保険等
奨 学 金 積 立	700,000	300,000	
退 職 金 積 立	100,091	100,000	
会館設備補修積立	100,000	100,000	
緑 の 基 金 積 立	30,000	0	
創立120周年記念事業実行委員会へ	2,000,000	0	
貸 付 金	0	3,200,000	長野高校PTA
予 備 費	0	50,000	
次 期 繰 越 金	10,189,255	8,194,755	
合 計	30,033,186	29,365,755	

母 校 近 況

● ラグビー班 単独チーム復活

顧問 奥脇 教

9月中旬「4年に一度じゃない」、日本においては「一生に一度」のキャッチフレーズのもと、アジアで初のラグビーワールドカップが開催されました。日本チームは予選リーグ全勝の快挙により初のベスト8入りを果たし、大いに盛り上がりを見せました。

巷では「ジャッカル」なんていう専門用語が飛び交い、ラグビーに携わる一人として、ありがたいことこの上ないと感じました。

さて、長野高校ラグビー班の近況について報告させていただきます。昭和中期に産声を上げ、一時期衰退したものの、昭和の後期に宮下善光先生により再興され、平成初期には3年連続決勝戦に進出しました。しかし以降、班員も徐々に少なくなり思うような成績を残すことができなくなりました。そんな中でも平成17年、4回目の決勝進出を果たしましたが花園出場の夢は叶いませんでした。ここから班員が激減し、学年で1人、2人の時代が続き、この間、長野工業、長野西、都市大学塩尻高校等に迷惑を掛けながら、合同チーム

として大会に参加するのが精一杯でした。

ラグビーワールドカップが要因なのかはわかりませんが、本年の4月には15人が入班し、まさに晴天の霹靂とはこのことでした。この秋の新人戦県大会には、2年生のキャプテン1人と1年生15人で11年ぶりの単独チームとして出場が可能となりました。試合の結果はともかく、本年度はじっくりと身体を鍛え、ラグビーの魅力 را 体現し、発信できるような班活動にしていきたいと考えております。ご声援の程、よろしくお願いいたします。



● ダンス班 活動報告

班長 2年 米山珠生

この春ダンス班には新たに21人の仲間が加わり、過去最多の41人となりました。13年前に創部された当時は5人だったそうです。父や母は「ダンスがこんなにも身近になったのは最近で、班活でダンスをするようになるとは思ってもみなかった」と。踊る場所があって、踊りたいという気持ちをもった仲間に出会い、踊れていることはとても恵まれていて幸せなことだと感じています。

さて先日、伊那で行われた大会に出場してきました。今年は2つの大会が2週続くという、ハードスケー

ジュールの中、それぞれの大会に向けて練習を重ねてきました。大人数を生かすにはどうしたらよいか、それぞれの個性を出すためにはどうしたらよいかギリギリまで考えました。また私たち2年生にとって初めての本格的な振り作りだったことや、新しいジャンルのダンスに挑戦したこと、ほかにも様々なトラブルがあったりと踊り手だけではいられない班活の難しさもたくさん経験しました。ですが遅くまで残って練習したり、時間を見つけては輪になって踊る姿、また良いところは認め合い、反対にダメなところははっきりと伝える姿もたくさん見ることができ、とても心強かったです。

踊りたいもの、目指す姿はもちろんそれぞれであり、また大人数である分、人間関係に悩む子が多いかもしれません。でも、みんなが持っている「ダンスが好き」という気持ちを大切に、お互いが良い刺激になる班活にしていきたいです。



● 新聞部 つらさのカタルシス

1年 池田 隆泰

粉塵を纏った風が鈍く吹いた。ぶよぶよとした林檎が紙屑のように落ちていった。10月20日、私の班は台風19号の被災地、長沼でボランティアの依頼主を探し茶色い道を歩いていた。依頼主は老夫婦となった。私はまず、家屋の裏で泥の掻き出しをした。たったの掻き出しかと油断したら最後、まだ水を含んだ重く粘り泥だった。シャベルは泥に刺さらず、すくったところで重さが腰にのし掛かり、一回で運べる量は僅かだった。幅約90センチ、奥行き約4メートルのそこが途方もなく広いと思った。1時間ほど作業をしたが、目に見えるような成果は無かった。「ありがとうございます、もうそれくらいいいですよ」と家の人が言うと私の中で無力感が反芻した。その後は車庫の泥水を掃いた。どこかを掃けば別のどこかへ泥が広がる、といった具合で作業はうまく進まなかった。家の人は農家だろうか、車庫の外には耕具が積んであった。きっと車庫から全て出したのだろうと思うと哀れで仕方無かった。軽トラは座席が茶色くなって動かなくなっていた。

昼になり休憩をとった。植木鉢の表面には乾いてひびの入った泥が乗り、庭の木の葉が遠くで風に鳴った。ヘリは飛び回り、塀は横に茶色

い線が引かれていた。家の中を覗いた。泥水に浸かって表面も色も剥げた床板、何もないその上に置かれた小さな紙と判子、茶色い染みが付いた壁。日常との乖離を改めて直視し私はこれまでにない寂寥の念を感じ取った。別のボランティアがひょいと床の上に上がり釘抜きで板を外そうとした。なかなかうまくいかない。家の人が電動の丸いノコギリを持ってきた。いよいよ私は堪え難くなってきた。長年暮らしてきた生活の根柢を自らの手で壊さなければならないつらさがヒシヒシ骨身にこたえた。

苦痛は自己の存在において避けることはできない。降りかかった苦痛は嘗め尽くす他はない。何があっても前に進むしかないのだと、私はひとつ学んだ。



支部・同期会・OB会だより

S.ウルマンの『青春』のごとく 吹奏楽班甲子会懇親会

吹奏楽班甲子会は、6月2日(日)、長野駅前「油や」で27回目の懇親会を開きました。14回生から17回生まで14



人の参加者は、昔日の思い出に浸りつつ愉快な一夜を過ごしました。とりわけ9年ぶりの出席となった加藤さん(16回)は、2年先輩の轟さん、山崎さんとは実に58年ぶりの再会で、懐かしさも一入のようでした。

会は事務局担当の清水さん(17回)の司会で進められ、まず代表幹事の塚田さん(15回)が、免許更新で認知機能検査を受けたことに触れながら、「体に気をつけて、これからもこの会に元気に出かけてほしい」と挨拶。続いて班長宮島さん(15回)の発声で乾杯し、しばらくは思い思いの歓談タイム。今年は50回記念のOB演奏会が3月に盛大に行われたこと、直近の吹奏楽団「夢」の演奏会や当日行われた現役の第47回定期演奏会を聴いた人が多かったことなどから、今どきの吹奏楽事情も話題になりました。かつて普門館での全国大会に出場したこともある母校吹奏楽班が、今や25人の小規模編成になってしまったことに—現在の高校をとりまく様々な事情があるようですが—



いささかの淋しさを感じつつ、そんな「逆風」の中でも精一杯頑張っている後輩たちを心底応援したい気持ちになりました。

近況報告(と言いながら在班当時の「秘話」も交え)では、後輩とともに「夢」バンドで楽しんでいる、昭和歌謡などをレパートリーに高齢者施設でボランティア演奏を続けている、お囃子方(笛)として地域の祭りの担い手になっている、寺社探訪や山歩きなど趣味の活動に勤しんでいる等々、充実した生活ぶりが熱く語られました。そこには「後期高齢者」という言葉に潜む老いのイメージはいささかもなく、加藤さんがいみじくも口にしたように、サミュエル・ウルマンの『青春』そのものという感じでした。最後は深沢さん(16回)の指揮で「山また山」を歌い、3時間におよぶ会もお開きとなりました。(高17回 丸山憲司)

30回台が8名、40回台が7名、60回までが8名と広い年次にわたる法律家が一堂に会し、しかし話は専ら高校時代の日々。

代表幹事の青木寛文弁護士(高41回)の名司会で、来賓のお二人のご挨拶はもちろん、出席者全員が懐旧談を中心にスピーチ。中でも大先輩の才口弁護士と宮澤建治弁護士(高11回)からは法律家の心得についての鋭くかつ温かい指摘があり、職域同窓会としての実を上げました。

座を締めたのは元応援団：小根山祐二(高42回)・富沢大樹(高51回)両弁護士の意表を突く見事なエールと指揮による校歌斉唱でした。

なお、今回上記の会の開催通知が届かなかった法律家の方は、是非とも宮澤法律事務所・青木弁護士までご連絡ください。(高21回 中村隆次)

法曹金鶏会

中山孝雄長野地裁所長を囲んで

裁判官・検察官・弁護士・公証人等、法曹資格をもつ長高卒業生の「職域同窓会」が法曹金鶏会(会員105名)、才口千晴弁護士(高9回)の最高裁判所判事就任のお祝い等、東京で総会・懇親会を3回開催してきました。

平成19年からはお休みしていたのですが、平成30年7月の中山孝雄判事(高30回)の長高卒として初の長野地家裁所長着任を機会に、6月8日(土)長野市のホテル犀北館にて懇談会を開催しました。

来賓として母校から宮本隆校長・桃林聖一金鶏会事務局局長にお越しいただき、会員33名、うち半数の16名は東京都や遠く札幌市から(太田貴久弁護士・高47回)参加されました。才口元最高裁判事をはじめ、篠原勝美初代知財高裁所長(現弁護士・高14回)、中山長野地家裁所長、北澤純一富山地家裁所長(高28回)、高取(田幸)真理子千葉地裁部総括(高37回)の裁判所組の他、東京・長野で活躍中の弁護士等多士済々のメンバーで、高29回までが10名、

籠球班OB会総会

籠球班OB会総会が6月15日(土)、長野駅前の油やにて開催されました。幅広い年代、そして東京在住の方も参加して賑やかな会になりました。総会では、今年の事業報告、今年の事業計画が承認されました。

役員改選が行われて、新会長に塩入信一さん(S45卒・高22回)が就任しました。副会長は、塚田和徳さん(S49卒・高26回)と藤沢幸雄さん(S50卒・高27回)です。塩入会長は、小中学生のバスケットの指導者として活躍されていて、長野県ミニバス連盟会長も務められました。そうした経験を活かし、「OB会を活性化させていきたい」と抱負を述べました。前会長の松岡憲四郎さん(S40卒・高17回)は、3期6年務められました。

また、今年度の主要行事の一つ「第40回長野県四高校バスケットボールOB対抗戦」が8月13日(火)、諏訪清陵高校体育館で開催され、参加しました。松本深志、上田、諏訪清陵の四校でリーグ戦を行い、結果は1勝2敗で3位でした。今回は、40回目の記念大会となりました。OBで



籠球班OB会

これほど長く続いているのは、全国的にも珍しい活動です。長野高校のOB同士はもちろん、他校との親睦も深まった大会となりました。
(高44回 小原克彦)

令和元年度同窓会総会・ 高36回卒業35周年同期会

6月22日(土)、令和となって初となる同窓会総会が長野市のホテル国際21で開催されました。創立120周年となる今年度は、私たち高36回生と高48回生が幹事を務めさせていただきました。

総会では事前に学年幹事会で承認された創立120周年記念事業などの議案が報告されました。

続いて「観光の潮流とグローバルNAGANO」と題して、長年温泉地や旅館の調査研究、観光マーケティングに取り組んできた亜細亜大学経営学部准教授の久保田美穂子さん(高36回)による記念講演会が行われました。講演では事前に取材したSGH研究に取り組む現役生徒と久保田さんとのディスカッションの様子も紹介されました。

懇親会は高48回生の皆さんが進行を担当。多くの皆様にご参加いただき、例年同様の盛り上がりとなりました。最後に高37回生の皆様に来年度の幹事を引き継ぎ、「山また山」「南下軍」を全員で斉唱しました。

高36同期会には当時の担任の先生3名にもご参加いただき、県内外から集まった同期と旧交を温めました。その際、学年主任を務められた山岸幸雄先生から「全員を無事卒業させるために学年担任全員が一丸となって取り組んだ」というお話を伺い、恩師への感謝の念を新たにしました。

最後に事務局の桃林先生、池田さん、事前準備や当日運営にご協力いただいた高36回・高37回・高48回の皆様に、この場をお借りして心より御礼申し上げます。

(小口正史)

近畿長高金鷄会 総会・懇親会

近畿長高金鷄会は、7月7日(日)七夕の日の夕刻から、大阪キャッスルホテル・錦城閣にて総勢30名の金鷄健児



高36回



近畿長高金鷄会

が集い、定例の総会・懇親会が開催された。中之島の大川に、天の川を模して7万個のLED電球を水面に流す「いのり星」のイベントに日時を合わせての開催である。

今回は、長野から長高金鷄会事務局長の桃林聖一氏（高22回）をご来賓としてお招きした。この日、母校はちょうど金鷄祭の真っ最中とのこと、無理を押してご臨席いただいた。

総会では昨年度活動報告、会計報告の審議、承認。ついで、小林道明会長（高15回）から野池徹新会長（高23回）へのバトンタッチがなされ、小林会長の6年間の労をねぎらい、また、新会長への期待の拍手の後、山田金吾さん（高8回）の乾杯の音頭で懇親会が始まった。

事務局長の桃林氏からは、10月に行われる母校の120周年記念行事と記念事業の概要、長野高校が新たな文科省教育改革推進事業（NGP）指定校に選ばれた旨の報告があり、また、今の長高生は（昔に比べて）至って真面目である等、最近の高校生事情などのお話も同った。

また、今回久々に、長野県議の高島陽子さん（高39回）が長野から駆けつけてくださり、紅一点のご参加に大い

に会が盛り上がった。高島さんは、たくさんの肩書をお持ちで活躍されている上、長高PTA副会長も務められた。

今回も最年長は3回小林博さんと嶋倉宏さん、いつも最多参加人数で氣勢を上げる高坂昌利さんはじめ13回卒の面々、国立民博名誉教授の中牧弘允さん（高18回）等々…多士済々のOB・OGが参集し、水面に映える青いLEDの天の川を眺めながら話は尽きない。

最後、唯一現役大学生の小湊和輝さん（高67回・大阪大学応援団リーダー!!）の素晴らしいリードで、全員で「山また山」を斉唱し、次回の再会を期しての散会となった。

（高28回 西澤誠二）

高7回 北七会総会

令和初めての総会は7月13日（土）34名出席のもと、長野ホテル犀北館で開催した。11時30分から記念写真撮影、会津正治君の腕前を示してくれた。例年通り坂野毅君の司会により総会開会、まず昨年からの物故会員16名の冥福を祈って黙祷を捧げた。若麻績佑孝幹事長の挨拶では、



高7回 北七会

今年母校は創立120周年を迎え、記念事業に4,000万円の寄付を募っていることから、そのお手伝いに北七会として10万円を寄付したい旨を諮り、全員の賛同を得て決定した。続いて宮沢彰副幹事長より事業報告・会計報告、柳沢正則監事の監査報告で議事は終了。

懇親会は東京北七会代表北村定君による乾杯で開会。今年の特別趣向は東京組桜井英博君、中沢信男君、有賀敏文君が「ローレライ」をドイツ語で歌おうと計画。湯川充代子君が先頭に立って日本語とドイツ語で一番を有賀君の名伴奏で歌い？大いに盛りあがった。

最後に校歌を斉唱。副幹事長宮崎忠昭君の音頭で一本締めを行い、来年の再会を祈って散会した。（宮沢 彰）

松本金鶏会

「第10回松本金鶏会」が7月23日(火) 松本市のファイブホルンにて、32名の同窓の皆さんが集まり開催されました。

おかげ様で10回を迎えましたが、各方面から「お前こんなところにいたのか」「いや、懐かしい人の写真を見た」「私もぜひ出たい」等、日新鐘でも取り上げていただいていることもあり、いろいろな繋がりを感じております。

開会に際して、松本金鶏会会長、(株)市民タイムズ代表取締役社長の新保力さん（高11回）からご挨拶をいただきました。そして、今回をもって会長の新保さんをはじめ、副会長の(株)五千尺代表取締役会長の藤澤繁雄さん（高11回）、(株)日本広告代表取締役会長の池田紀夫さん（高11回）が勇退され、新たに安曇野赤十字病院院長の中野武さん（高25回）が会長を引き継がれる旨のご紹介がされました。皆さまからはお三方へのご慰労と新会長への今後への期待の大きな拍手がありました。

また、今回は長野高校現役校長の宮本隆さん（高31回）のご参加をいただき、本校創立120周年記念行事の件をはじめとした本校の最近の動向を中心にお話しいただきました。加えて本会中にあらためて募金も行き、後日しっかり同窓会に送らせていただきました。ご協力まことにありがとうございました。

結びには在学中応援団長でもあった宮本校長のもと、厳しい指導を復活いただき、引き締まったエールとより大きな声での校歌を存分に楽しみました。

松本金鶏会は、冒頭に記しました通り幅広い年代のご参加による柔らかな集いです。松本を取り巻く地域にお住まいのOBの皆さま、職場の異動などで松本にご縁の生じた皆さま、一緒に集いて大いに「山また山」を歌いましょう。

なお、第11回は令和2年2月上旬開催の予定です。

（高31回 金子智雄）

高51回 卒業20周年記念同窓会

8月10日(土)午後5時から、長野市内のホテルメトロポリタン長野浅間において、長野高校第51回生卒業20周年記念同窓会を開催しました。

本同窓会は、卒業後20周年の節目の年に大々的に開催されるものですが、私たち第51回生も、長野高校を巣立って早くも20年が経ったのだと時の流れを実感しました。

当日は、第51回生約360名のうち、3分の1にあたる約120名の同窓生が出席し、高校時代の思い出話を花を咲かせたり、近況を報告し合ったりして、大いに盛り上がりました。残念ながら2組のご担任だった宇治義浩先生のご出席が叶いませんでしたが、1組の今井秀幸先生、3組の松山敏彦先生、4組の柳原忠夫先生、5組の中村公一先生、6組の宮崎秀一先生、7組の小林寿雄先生、8組の玉川吉彦先生、9組の塚田正彦先生、そして、同窓会事務局長の桃林聖一先生にご臨席を賜りました。恩師の先生方の高校時代と変わらずお元気なお姿を拝見することができ、また、私たちの成長した姿（もしかしたら、高校時代とあまり変わっていないのかもしれませんが…）を見ていただくことができ、大変嬉しく思いました。

この卒業20周年記念同窓会によって、第51回生の輪が再び繋がり、また、今後は卒業生の立場で長野高校にコミットしていく契機となることを祈念するとともに、開催にあたってご尽力いただいた





皆さまに感謝申し上げ、本同窓会の報告とさせていただきます。
(富沢大樹)

管弦楽班OB・OG会 盛夏の演奏会

令和初めての管弦楽班OB・OG会が8月11日(日)に金鶏会館で催され、卒業生27人、現役生16人が集まりました。赤ちゃんを連れ家族で参加してくれた卒業生もいて、とてもうれしかったです。

卒業生でのモーツァルト交響曲36番リンツは、85歳になる山本昇先生の指揮で、普段集まって練習できないメンバーをまとめ、素晴らしい演奏を聴かせてくださいました。当日は吹奏楽班の会と重複し、忙しい思いをさせてしまいましたが、お元気な姿に私たちも励まされました。また、協力していただいた吹奏楽班OBに感謝です。

現役生と合同の曲はチャイコフスキー弦楽セレナーデⅡワルツです。バイオリニストの桐山建志さんの指揮で水津潤先生率いる高校生たちと素敵な演奏ができました。

恒例のブレイクタイムでは、会長の町田さんのフルート演奏や、神戸さん、宮崎さん、桐山さん、古澤さんによる、ベートーベン第16番最後の弦楽四重奏を聴き、快楽亭狂志(高33回・中村雅則)さんの落語で笑いました。ま

た、山本先生の若く熱かった日の思い出も聞けました。

現役では1年生6人を含むメンバーで、2週間で仕上げたとのピーター・ウォーロックのカプリオール組曲。

最後は、桐山さんのバッハ無伴奏パルティータ第2番シャコンヌの独奏に感動し、贅沢な一日を過ごしました。

(高33回 中野芳子)

高5回 長野北高二八会総会

本年度の総会は9月6日(金)、ホテルメトロポリタン長野において30名の参加のもと開催された。午後12時に集合し、記念撮影。今年度、鬼籍に入られた7名に黙祷を捧げた。中田徹幹事の司会で始まり、小松好人幹事から、我々84歳と85歳の仲間たちは既に平均寿命を越えているが更にこれからも頑張ろう、と昭和60年頃(故橋本浩氏が監督)の母校野球部の青い応援帽を持参しての挨拶があった。続いて伊藤治通会長から、今年の甲子園に飯山高校が出場して感激したとの挨拶があり、来年度の幹事を倉石高英さんと関川光彦さんに依頼した。会務報告では、島田茂事務局長から現在の会員状況について、登録総数407名、現会員234名、海外在住者4名、不明者22名、物故者147名との報告があった。続いて宮川清副会長から東





高5回 長野北高二八会

京部会が3月28日に銀座で19名が参加し、開催された報告があり、乾杯に入った。懇親会での話題を挙げてみたい。

まず、母校の応援団について。昭和30年頃、立教大学の応援団長であった故横田道夫氏を紹介したこと。当時、立教大では長嶋茂雄氏が活躍していた。

筆者が母校で教員としてお世話になっていた時の思い出を2つ。一つは、昭和44年6月2日に開校記念競歩大会が実施されたこと。雲上殿がスタート・ゴール地点となる13kmの長距離レース。当時2年生の西方秀志君がゴール直後に倒れ、入院加療後に亡くなった。この頃は学童生徒の突然死があり、県医師会で心疾患を担当していた小島直彦ドクターに、学校ごとに行われている健康診断で一層の心臓チェックをお願いした。

もう一つは母校中庭に植樹されている「高野槇」について。昭和48年10月、卒業20周年記念として二八会が母校へ寄贈した。当時の3学年会では進学のパロメーターとして東大の合格数をあげていた。昭和49年度の東大合格

者数は35名(現20、浪15)と過去最高であった。これを記念して、原万平先生(生物科)よりいただいた万刀美神社の神札を根元の神棚に祀り、御神木とした。当時の進路係の石野吉宏先生(高25回)にお願いをし、学校側の了解を得て現在に至る。受験生諸君は記念の「高野槇」をお参りして自信を深めてほしい。だが困ったことに今回の台風19号で傾いてしまい、宮本隆校長先生に修復をお願いしている。

本年度の総会、懇親会が賑やかに過ぎ、最後に元応援団長の齋藤秀行さんの音頭で校歌を斉唱し、来年度の再会を期して散会となった。(学年幹事 原 哲夫)

高16回 卒業55周年記念同期会

卒業後55年の節目を迎えた16回生の記念同期会が9月7日(土)に長野ホテル犀北館にて行われました。クラス幹事を通し毎年全員に声がけて、新年会・お花見会・暑



高16回

気払いと年に数回集まっているにもかかわらず、県内外から84名が集う盛大な記念同期会となりました。

記念撮影のあと、代表の北川原稯君から、87歳で現役で活動している米国のシンガーソングライター、ウィリー・ネルソンの「ラスト・マン・スタンディング」という曲の歌詞を引き合いに「今日集まった我々も健康に留意して、それぞれが最後の生き残りの1人を目指そう」とユーモアのある挨拶がありました。尚、ご病気を押してご夫人の介助の下、車椅子でご参加くださった唯お一人の恩師、中尾順悟先生はそんな挨拶をじっと聞いておられました。

続いて、いつも学年のまとめ役である幹事長の小林正衛君から、今後の記念同期会の開催について、「いきなり10年先では参加者が間違いなく激減するだろうから必要に応じて考えたい」との話があり、笑いを誘っていました。

乾杯の音頭は、今回出席の紅2点、小宮山通子君・千葉良子君、女性2人の発声で宴会が始まりました。続いて卒業以来初参加の4人から近況報告があり、心はあつという間に学生時代に戻り、会場は大きな話の渦に包まれました。

またたく間に2時間半が過ぎ、最後に全員で肩を組み、内田寛君のトランペットに合わせ、早川豊君のエールで校歌「山また山」を斉唱し、次回の再会を誓って会を閉じました。
(原田基典)

長野高校合唱班OB・OG会 カイトソサエティ特別演奏会

カイトソサエティは、長野高校合唱班OB・OG会の愛称で、由来は母校校章の金鷄（KITE=鶏）によります。1965年の結成以来、定期演奏会・特別演奏会による演奏と、現役合唱班支援を軸に活動を続けてまいりました。そして、本年は母校の創立120周年の慶事を寿ぐために、去る

9月8日（日）、長野市芸術館において「長野高校120周年記念：カイトソサエティ特別演奏会」を盛大に開催することができました。

校歌の合唱からスタートしたプログラムは三部構成で、まずは混声合唱のための唱歌メドレー「ふるさとの四季」、次に男声合唱組曲「山に祈る」を熱演。第三部では「時代をつないで」というタイトルのもと、往年メンバーから若手へ、さらには現役諸君へと、様々なジャンルの合唱でお客様に楽しんでいただきました。最後は参加メンバー全員による混声合唱「言葉は」「大地讃頌」で、熱気は最高潮に達しました。

この日のための練習を積み重ねた成果が表れ、参加した会員は大いに満足の様相でした。加えて、大学1年生から70歳代後半に至る幅広い年代の会員が100名近くでの大合唱を実現できたという感慨に満ち溢れたコンサートであったとも思います。

ご後援いただいた同窓会及び報道各社様、そして客演の方々など、ご助力賜った関係の皆様へ深く感謝申し上げます。
(カイトソサエティ会長 高16回 堀内征治)

高19回 同期会

我々19回卒は「一休会」の名のもとに毎年同期会を開催しております。

本年は9月21日（土）ホテルサンルート長野東口内の「茶寮志もだ」に41名が集いました。

恒例の総会に引き続き、本年の講演会は坂口順一君から主題「サウジの石油プラントからカタールLNGプラントまで — エンジニアリングに従事して45年」副題「エネルギーとCO₂ 排出問題のソリューションと水素社会の幻想」と題して1時間講演していただきました。彼のワールドワイドな活躍とそれぞれの国での友人関係構築、エネルギーに関する鋭い洞察など極めて興味深い話が聞けました。



合唱班OB・OG会



高19回

その後の懇親会では大いに語り合い、最後に応援団OBのリードで校歌を歌い、エールを行い散会となりました。

翌日には年2回34年続いている一休会ゴルフコンペを実施し、19人が集いました。（一休会会長 北澤真一）

高31回 卒業40周年記念同窓会

去る9月21日(土)、掲題の同窓会を開催しました。

2部構成とし、第一部の学校探訪では懐かしい旧校舎(現金鶏会館、登録有形文化財)と現校舎の見学会、第二部は懇親会としました。第一部には43名、第二部には66名の同期が集いました。

学校探訪では桃林同窓会事務局長から旧校舎の改築の経緯と現校舎の特徴について解説をいただいた後、池田満寿夫ギャラリーや資料室を見学しました。擦り減った階段、軋む廊下の床に当時の面影を感じながらの見学会となりました。

続いての現校舎見学会は、同期である現学校長の宮本隆君に案内してもらいました。同期の中には障がい者がおりますが、階段に設置された昇降機を使用させてもらい

バリアフリー化の進んだ設備に感心をし、また創立120周年記念事業で設置された冷房設備も目にしました。

懇親会は、幹事から120周年記念事業募金の報告、協力の御礼の後、宮本校長による挨拶、乾杯の発声により賑やかにひと時を過ごしました。会の締め括りには、元応援団長の小林佳文君に山岸利行君、宮本隆君を加えたエールの後、校歌が高らかに斉唱され、感動を噛みしめました。

会場には校旗を事務局からお借りして掲示したほか、卒業写真の拡大パネル、在学中の冊子「金鶏」、往時の金鶏祭のパフレットを展示しました。また、8月16日に長野朝日放送で放映された特別番組「君と見つけた、最高の夏」も放映しました。（高31回幹事）



高31回



高13回

高13回 長野三六会 賑々しく開く

高13回の長野三六会は9月27日(金)、JR長野駅前のホテルメトロポリタン長野に41人が参加して開かれた。昭和36年卒の同期会は、東京と長野でそれぞれ開いていて、東京での集まりは60人余りが参加。それに遠慮したわけでもあるまいが、長野はわざわざ「長野三六会」と称している。

開会の1時間以上前から三々五々集まり始めた同期は、午後3時の定刻には高田英麿、高坂昌利(奈良)など県外に住み着いた15人を含め予定の全員が顔をそろえた。

今回は7組と8組が当番幹事。まず、幹事長の池田宏が最近の情勢について報告。令和元年の今年、多くの友が喜寿を迎えて訃報も少なくない中で、先に逝ってしまった旧友をしのんで頭を垂れた。

続いて金鷄会学年幹事の中村和貴が同窓会から求めら

れた寄付の実績について「我が学年は好成績」と報告した。

長野三六会会長の花岡荘太郎が体調不良で欠席したため、代わって牛山洋の音頭で「元気でしぶとく生き抜こう」と乾杯。続いて小山征一郎の司会進行で宴席に移ると、待ちかねたようにたちまち談論風発。高槻在住の梅津利治が「淡路島に別荘を持った。魚はうまいし、一度来てくれ」と面白おかしく紹介すると「ほんとうに行っているのか。関電並みのご接待、頼む」と冗談交じりのヤジが飛んだ。

予定の時間はたちまち過ぎて、清水英紀の発声で校歌「山また山」。次期幹事を9組と1組に託すと、心を残しながら旧友たちは黄昏の街に散った。(敬称略・牛山 洋)

高21回 卒業50周年同期会

10月12日(土)、団塊の世代の2年あとから半世紀駆け



高21回

抜けた高21回が卒業50周年同期会を開きました。

セントラルスクウェア隣の居酒屋「権九郎」(高20回の持田健二さん経営)に毎月21日に二一会と名付けて集まるようになってもう20年近くになり、この同期会も2年以上前からそこで企画されました。

40周年は柳町中、50周年は付属中のそれぞれ出身者が幹事や司会を担当。今回は付中卒の金子覚君(4組。もと放送局)が事務局長と式典の司会、同じく横山恵さん(2組。もと放送部)が懇親会の司会、これを内田秀人君(9組。金鶏会理事)や児玉勝美君(1組)ほか二一会のメンバーがバックアップしました。

当日は、想定しようのない未曾有の台風19号の直下、127名の参加希望は新幹線の「計画運休」で激減。事務局は出席者数の予測に神経をすり減らしましたが、雨風激しい中、駅前のホテルメトロポリタン長野には82名もの同期生が参集しました。

物故者37人にまず全員で黙祷。幹事代表から母校120周年と卒業50周年で二重に寄付いただいたことも含めてお礼の挨拶、40周年の折の幹事代表だった池田京子さん(6組)の発声で乾杯し懇親会に移りました。

今回最遠方の富井常雄君(4組。仙台市)からの挨拶の後、ジャズ演奏。少なくとも県内のジャズファンで知らない人はいない「ホット・ブリザード」のリーダー久遠峯志君(5組)のサクソに懐旧談をしばし忘れて耳を傾けました。

カリントが賞品の参加数クラスマッチ等大盛り上がりの中、文字通りアッという間に予定時間が過ぎ、写真撮影のあと次回(55か60周年)の幹事を東部中に引き継ぎました。そして50年前の応援団リーダーのあの黄色に金鶏のTシャツが問題なく着られてしまう体型を維持してきた兼沢博夫君(7組)の指揮で、まず全員が予定外の「南下軍」をソラで唱い、次いで校歌を高らかに斉唱しました。

内田君の締め挨拶のあと「台風が上陸したので留意ください」(ホンネは「トシヨリは危ないから早々に帰宅しなさい」)のアナウンスも正にどこ吹く風、各組ごとに暴風雨のなか二次会に散ったのです。この時点ではまだ約5時間後のあの千曲川等の堤防決壊は予想もできませんでした。

末筆ながら、この会に引き続いて起きてしまった台風による大災害の被災者の皆様に、改めて心からお見舞い申し上げます。(幹事代表 2組 中村隆次)

高17回 同期会

本年の同期会は9組有志が幹事となり、11月16日(土)ホテルメトロポリタン長野を予約した。会費等は昨年並みとして案内ハガキを投函しようとしたところ、「会費が高すぎる、料理は人数×8割程度を用意すればよい」といった強硬な意見が出されたため、急遽、再検討会議が招集された。しかし、主張した本人と事務担当以外の出席はなく、原案通り実施することが確定したので案内を送った。この日はまさしく未曾有の大水害の前夜であった。翌朝は長野市内をはじめ県内各地で交通は寸断され、床上、床下浸水に見舞われた。返信ハガキには見舞や安否を尋ねる言葉が溢れていた。被災された同期生が何人かいることも確認され開催を躊躇したが、約50名から出席の返信が届いたので予定通り開催することにした。

同期会当日は被災状況の報告、写真撮影、黙祷、幹事挨拶を行い、特別企画として「落語を一席」。ジジイばかりの客席はやりにくかったと演者の声ではあったが…。

そして乾杯。歓談後、クラスごとに参加者の近況を述べ、次年の東京開催へ引き継ぎ、「ニューオータニ・5,000円会費で」との声もある中、「山また山」を高らかに歌い上げ、散会となった。(佐藤友治)



高17回

市民大学事業

古代史講座

公開講座

主催：科学研究費補助金(基盤研究(S))「天皇家・公家文庫収蔵史料の高度利用化と日本目録学の進展―知の体系の構造伝来の解明」研究プロジェクト
協力：一般社団法人長野教育文化振興会

於 金鶏会館 大講義室

続・古典を読む―歴史と文学―「いま明かされる古代」シリーズ43&中世

第1回 8月31日(土)

名古屋市立大学 副学長・人文社会学部 現代社会学科 教授 吉田 一彦 先生
「『日本霊異記』からみた古代の社会と仏教信仰―その2」

第2回 9月28日(土)

愛知県立大学 日本文化学部 歴史文化学科 教授 丸山 裕美子 先生
「奈良時代の医療と福祉」―正倉院文書や木簡が語る古代社会の実態―

第3回 10月12日(土)

前 宮内庁正倉院事務所 所長 杉本 一樹 先生
「歴史のなかの正倉院」

第4回 11月9日(土)

三重県立斎宮歴史博物館 学芸員 松田 茜 先生
「三条天皇と当子内親王」―三条朝における斎王・当子内親王の意義―

第5回 11月16日(土)

津山工業高等専門学校名誉教授 俣野 好治 先生
「木簡と古代の租税」―贄と調を中心に―

第6回 12月21日(土)

立命館大学 文学部 日本史研究学域 教授 本郷 真紹 先生
「天照大神・記紀神話と持統天皇」



回期別対抗ゴルフ・コンペ

同窓会主催のゴルフコンペが9月29日(日)長野カントリークラブにおいて、54名参加のもと新ペリア方式で開催されました。成績は下記の通りです。

- 個人優勝 戸根川千尋(高11) グロス93 ネット71.4
- 個人2位 中澤 利雄(高20) グロス98 ネット71.6
- 個人3位 山田 始(高22) グロス89 ネット72.2
- 団体優勝 高20(中澤利雄・江村和幸・渡辺演夫)
- 団体準優勝 高27(田川元・園田正剛・西山哲司)
- 団体3位 高19(田原敏明・金子廣章・西村博行)
- 団体4位(高11)／団体5位(高34)／団体6位(高23)
- 団体7位(職員)／団体8位(高22)／団体9位(高25)
- 団体10位(高29)／団体11位(高24)



池田満寿夫ギャラリー

金鶏会館では池田満寿夫(高4回)の作品を50点余り、常設展示しております。ぜひ、ご覧にお越しください。(平日14時～17時、それ以外の時間は予めご連絡ください。)



結婚相談

ご希望の方は申し込み用紙を電話またははがきでご請求ください。年齢、性別、学歴等は問いません。

TEL.026-235-3822 長野市上松1-16-12 長野高等学校同窓会 結婚相談室

同期会開催のご案内

◇高17回卒業同期会：2020年秋に東京で開催予定

開催時期：2020年11月10日～20日

平日(火曜または水曜)午後

開催場所：東京駅近辺を予定

エンターテインメントおよび講演：

ハワイアン演奏など検討中

会 費：9,000円～10,000円

日程、会場など開催概略は日新鐘2020年6月発行号に掲載予定

令和元年度同窓会費(3,000円)のご送金をお願い致します。

今年度の会費未納の方に振込用紙を同封いたしました。ご協力をお願いいたします。

送金方法

- ①同封の振込用紙を使う →手数料は事務局負担になります。
- ②インターネットバンキングやATMによる振込 → 手数料を引いてお振込みいただいても構いません。振込人氏名に回期をご記入ください。

寄贈図書



蝶々発信
著者 今井 彰氏(高6回)



**医療・福祉の総合情報誌
JAPAN MEDICAL SOCIETY**
2019年6月号～11月号
野村元久氏(高10回)寄贈



閑人閑話
KANJIN KANWA
著者 片山 哲氏(高12回)



炎上する相続
著者 高野眞弓氏(高15回)



**世界をよみとく
「暦」の不思議**
著者 中牧弘允氏(高18回)



環境政策のクロニクル
水俣病問題からパリ協定まで
著者 吉田徳久氏(高20回)



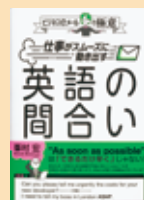
黄昏の夜明け
光速度社会の両義的現実と人類史の「今」
訳者 土屋 進氏(高21回)



もういいか！
小山信二氏(高22回)寄贈



石、人を愛す
木立を抜けて、河原に降りて
小林雅俊氏(高23回)



ビジネスメールの極意
仕事がスムーズに動き出す
英語の間のい
著者 峯村 宏氏(高28回)



**社員10人の会社の
1人当たり経常利益倍増ノート**
著者 曲淵博史氏(高31回)



**ライブラリ 今日の経済学12
財政学**
宮澤和俊氏(高33回)共著



「倭国」の誕生
著者 仲島 岳氏(高39回)



**破壊力抜群！
角道オープン向かい飛車
徹底ガイド**
著者 田中悠一氏(高55回)



**ファミリーヒストリーが明かす
松代・真田十万石の歴史**
—退職化学者の道楽先祖探訪記—
小林啓二氏 寄贈

ご寄付をいただきました。

ありがとうございました。

- ◆高16回(卒業55周年)の皆様より20万円のご寄付をいただきました。
- ◆高21回(卒業50周年)の皆様より20万円のご寄付をいただきました。

現役生徒たちに役立つように使わせていただきます。ありがとうございました。

- ◆高51回(卒業20周年)の皆様より21万8,482円のご寄付をいただきました。

今年度卒業予定の現役3年生の卒業証書ファイル購入の資金として使わせていただきます。



長野高校吹奏楽班 OB・OG第51回記念定期演奏会

日時 令和2年3月29日(日) 13:30 開場/14:00 開演
会場 長野市芸術館 メインホール 入場無料
曲目 M. ムソルグスキー/組曲「展覧会の絵」より、
A. リード/アルメニアンダンス パート1 ほか

皆様のご来場、また多くの吹奏楽班OB・OGの皆さんの参加を心よりお待ちしております。

吾が法曹人生の序～終章

才口千晴氏(高9回・元最高裁判所)より、図書購入に役立ててほしいと長野高校へ100万円のご寄付がありました。図書館司書が370冊を選定し購入しました。

11月8日(金)才口先生に來校いただき、宮本学校長から感謝状を贈呈しました。また、将来、法曹界を目指す生徒を対象に「吾が法曹人生の序～終章」と題して講演していただきました。



- ・創立120周年記念特集番組「我に金鶏の光あり～長野高校創立120周年～」がSBC(信越放送)で放送されます。放送日は12月22日(日)午後3時～4時です。
- ・信濃毎日新聞の創立120周年特集全8頁は台風19号の災禍のため掲載を見合わせておりましたが、11月28日(木)に掲載になりました。同窓会ホームページにPDFファイルをアップする予定です。
- ・令和2年度同窓会総会は、6月27日(土)ホテル国際21において開催します。当番回期は高37回・高49回・高61回の皆様です。よろしくお願いします。